

経営学系での Scubic を利用した学習サポートの実践例紹介

都市教養学部経営学系・教授
山下 英明

都市教養学部経営学系および大学院社会科学研究所経営学専攻のビジネススクールで実施されている、Scubic（エスキュービック）を利用した学習サポートの実践例を紹介した。Scubic は、教員のコースデザイン力の向上と授業支援を目的としたオンラインシラバスシステムで、河合塾と名古屋大学高等教育研究センターが共同で開発し、2003 年より本格運用されている。この種のシラバスシステムは、履修選択時に授業内容等を提示する機能よりも、むしろ授業の進行に伴って情報を発信・共有するために活用されるものである。学習サポートシステム、ゴーイングシラバスとも呼ばれる。経営学系では、河合塾に年間約 50 万円を支払い、サーバの運用とメンテナンスを依頼している。したがって、システムを管理する教員の負担は、Scubic の使用を希望する教員に ID を発行するなどの簡単な作業に限られる。

Scubic の学生に対する学習サポート機能は以下の通りである。

(1) シラバス（基本情報、授業概要）の参照

授業の基本情報（授業タイトル、開講時期、授業時間、教員名、オフィスアワーなど）、および授業概要（授業の目標、教科書、参考資料・文献、成績評価の方法、注意事項、履修条件）を教員が書き込むと、学生に表示される。

(2) 更新される授業計画の参照

毎回の授業計画（授業内の学習活動、授業時間外の学習活動・当日の授業までに準備すること）を教員が書き込むと、学生に表示される。

(3) お知らせの参照

教員から学生へ連絡事項を通知できる。

(4) 配布物のダウンロード

教員が教材、資料などの電子ファイルをアップロードすると、学生はそれをダウンロードすること

ができる。

(5) 毎週の授業記録の参照

毎回の授業の記録（進捗状況など）を教員が書き込みむと、学生に表示される。

(6) 課題の確認、提出

教員が出した課題について、学生は教員ヘイーターネットを介して電子ファイルで提出できる。このとき、教員は締め切り日時を設定でき、また優秀なレポートなどを他の学生に公開することもできる。

(7) みんなの部屋の利用

学生同士がテーマを設定してディスカッションするスペースがある。

(8) 登録した授業の配布物、提出物管理

学生は、ダウンロードしていない配布物がないか、また提出していない課題はないかをチェックすることができる。

FD セミナーでは、これらの機能について実際の画面を参照しながら具体的に説明したが、本誌では割愛する。

これらの機能を教員の立場から評価すると、シラバス（基本情報、授業概要）の登録、授業計画、毎週の授業記録の登録、更新は、入力の手間がかかり面倒な作業ではあるが、コースデザイン力の向上には有益であると感じている。さらに、お知らせの表示、教材、資料などの配布、課題等の提出等の授業支援機能は利便性が高い。また、課題の評価一覧を自動的に作成する教員用機能もあるが、大学の成績入力システムと連動していないので、最後の成績の入力が二度手間になるという問題がある。

Scubic のような学習サポートシステム導入の目的には、コースデザイン力の向上と授業支援の他に単位実質化支援があると考えている。すなわち、学生が授

業時間以外に学習するために支援を行うことである。実際、授業時間外学習の指示を徹底することができる、欠席者が授業の進捗を確認できる、資料の配布や課題の提出、また教員・学生間のコミュニケーションがインターネット上でできるなど、単位実質化に効果的な機能が多い。しかし、学生が授業に出席するメリットが薄れ、欠席者を増加させる危険もある。単位実質化の実現のためには、教員の負担を背負う覚悟と学生の

単位取得に対する意識改革が何よりも重要である。

最後に、学習サポートシステムにおける今後の課題は、まず全学で使用されているこの種のシステムを統一することである。これは、学生の利便性からも必要不可欠であり、利用者やコンテンツが莫大になる前に実現すべきである。また、この統一したシステムとWebシラバスシステムおよび採点表のWeb入力システムとを一体化することも、今後の検討課題である。